

平成25年度「全国学力・学習状況調査」 結果の分析と今後の課題について

大阪市立横堤中学校

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成25年4月24日(水)に、3年生を対象として、「教科(国語・数学)に関する調査」と「児童生徒質問紙調査」を実施いたしました。

本校では、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後の取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、大阪市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの学力向上をめざしています。学校の現状や取組の参考にしていただきたいと思います。

1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、児童生徒の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

国・公・私立学校の小学校第6学年、中学校第3学年の原則として全児童生徒
横堤中学校では、3年生 106名

3 調査内容

(1) 教科に関する調査

| 主として「知識」に関する問題 【国語A・数学A】 | 主として「活用」に関する問題 【国語B・数学B】 |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none">・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など | <ul style="list-style-type: none">・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など |

(2) 児童生徒質問紙調査

| |
|------------------------------|
| 児童生徒質問紙調査 |
| ・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査 |

平成25年度「全国学力・学習状況調査」検証シート

大阪市立横堤中学校

生徒数

106

平均正答率 (%)

| | 国語A | 国語B | 数学A | 数学B |
|-----|------|------|------|------|
| 学校 | 75.1 | 63.1 | 65.6 | 40.1 |
| 大阪市 | 72.2 | 61.0 | 59.6 | 37.1 |
| 全国 | 76.4 | 67.4 | 63.7 | 41.5 |

平均無解答率 (%)

| | 国語A | 国語B | 数学A | 数学B |
|-----|-----|-----|-----|------|
| 学校 | 2.3 | 2.4 | 4.8 | 17.2 |
| 大阪市 | 3.6 | 4.7 | 7.2 | 20.9 |
| 全国 | 2.4 | 2.8 | 5.3 | 16.7 |

結果の概要

平均正答率において、昨年度は、国語A・Bで1ポイント、数学A・Bで2ポイント以上、全国平均を上回ったが、今年度は、数学Aで1.9ポイント上回った他は、全国平均を下回った。5年前の調査と比較すると、国語で4ポイント、数学で10ポイント高くなり、この5年間で着実に力をつけてきている。また、平均無解答率は、数学Bを除いて全国平均より少なく、学習に前向きに取り組もうとする生徒の学習意欲の現れと考えられる。

生徒質問紙調査において、「朝食を毎日食べている」と答えた生徒が、全国平均を13.5ポイント下回るなど、生活習慣に関わる項目で課題が見られた。一方、「自分には良いところがある」と答えた生徒は12.8ポイント、「自分の行動や発言に自身を持っている」は5.1ポイント、「将来の夢や目標を持っている」は7.3ポイント、全国平均を上回り、自尊感情の項目では、高い値を示した。また、学習習慣の項目では、家庭で宿題、予習、復習をしている生徒は、全国平均を下回っているが、学習塾で勉強している生徒は、大きく上回った。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

習熟度別少人数授業をはじめ、個々の生徒の課題やつまづきを把握し、学習内容や教材、授業形態を工夫してきたことや、若手教員を中心に研究授業等に取り組み、個々の教員の授業力が向上し、徐々にその成果が現れてきている。生活指導面については、教育相談活動を重視し、生徒との個別面談や教員の生徒理解を高める研修、情報交換の機会を多く持つことにより、落ち着いた教育環境づくりに成果をあげている。

本校においては、学力・体力はともに一定の水準に達しているが、生徒一人ひとりが未来の自分を見つめ自立していく力においては課題があった。今年度の調査結果では、「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒の割合が75.5%となり、道徳教育の充実やキャリア教育、体験的な活動に重点をおいて取り組んできた成果が現れたと考えられる。

今後、学習面においては、生徒に考えさせる場面、発表する場面を多く取り入れた授業展開をさらに工夫し、単に計算力や記憶力を問うだけではない「なぜ」や「プロセス」を大切にする授業への改善を図る。また、ICTを活用した授業に取り組んでいけるよう、研究を進める。生活指導面においては、すでに今年度より、「横堤中学校生徒10カ条」を掲げて取り組んできており、来年度以降、さらに、その成果が期待される。

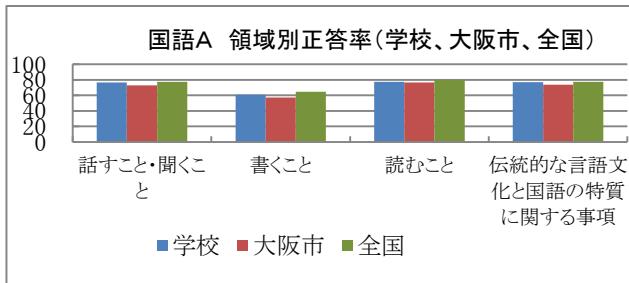
また、本校では、保護者・地域と連携した取組が伝統的な取組としてこれまでに定着しており、地域行事に関わる生徒も多い。今後は、その基盤の上に、学校元気アップ活動の更なる充実を図り、学習面においても地域・保護者・学校が一体となった体制づくりを進めていく。

【国語】

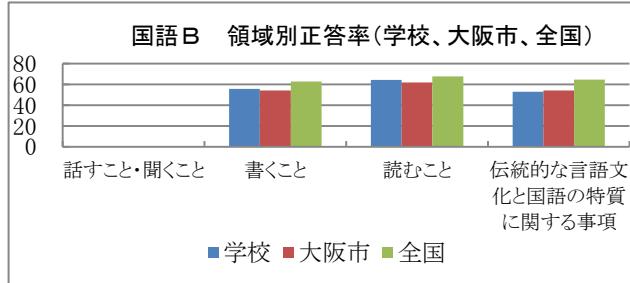
結果の概要

- A問題の平均正答率は75.1%で、全国と比較すると1.3ポイント低いが、大阪市と比較すると2.9ポイント高い。「話すこと・聞くこと」「言語文化・国語の特質」では、全国との差はほとんどなかった。
- B問題の平均正答率は63.1%で、全国と比較すると4.3ポイント低いが、大阪市と比較すると2.1ポイント高い。「言語文化・国語の特質」では、全国との差が顕著であった。

| A 問題 | | 平均正答率(%) | | |
|------------|----------------------|----------|------|------|
| | | 学校 | 大阪市 | 全国 |
| 学習指導要領の領域等 | 話すこと・聞くこと | 4 | 76.7 | 73.1 |
| | 書くこと | 4 | 60.8 | 57.3 |
| | 読むこと | 6 | 77.5 | 76.8 |
| | 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | 18 | 77.1 | 73.9 |

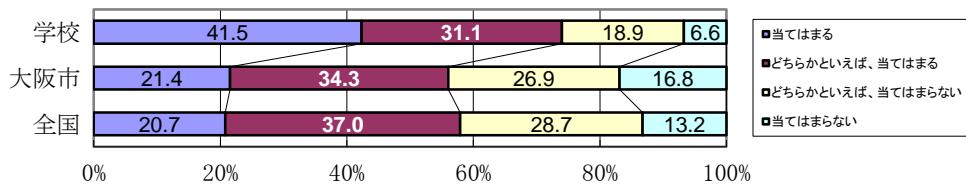


| B 問題 | | 平均正答率(%) | | |
|------------|----------------------|----------|------|------|
| | | 学校 | 大阪市 | 全国 |
| 学習指導要領の領域等 | 話すこと・聞くこと | 0 | — | — |
| | 書くこと | 3 | 55.7 | 54.0 |
| | 読むこと | 8 | 64.4 | 61.9 |
| | 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | 1 | 52.8 | 54.2 |

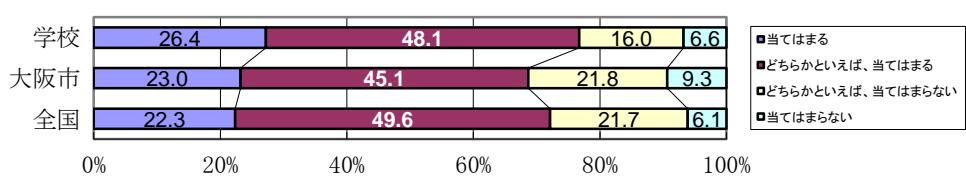


国語に関する「生徒質問紙」

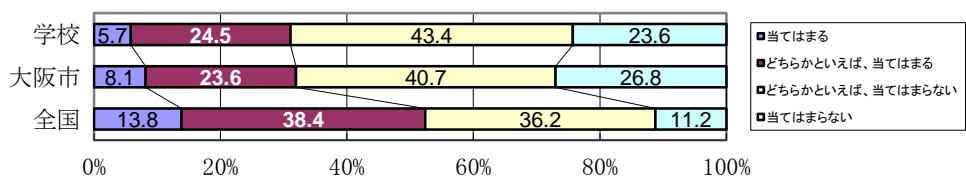
| | | |
|-------------|-------|--------|
| I 53 | II 52 | III 63 |
| 国語の勉強は好きですか | | |



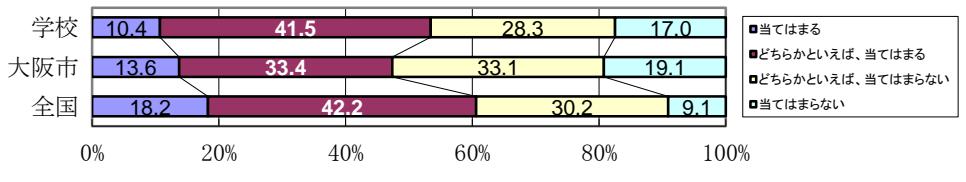
| | | |
|-------------------|-------|--------|
| I 55 | II 54 | III 65 |
| 国語の授業の内容はよく分かれますか | | |



| | | |
|---|-------|--------|
| I 58 | II 57 | III 68 |
| 国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか | | |



| | | |
|---|-------|--------|
| I 60 | II 59 | III 70 |
| 国語の授業で自分の考えを書きとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか | | |



成果と課題

国語の学習することには積極的であるが、漢字・語句を覚えることに対して苦手意識が強く、定着していない。覚えるということ自体を難しいと感じている生徒が多いので、授業の工夫改善を図っていく。また、文章読解の授業に「ふくしま式」(福嶋隆史氏の発案した論理的思考力によって国語読解する方法)を取り入れた。「いいかえる力」「くらべる力」「たどる力」という3つの方法で、論理的に文章を読み解く方法を学習させたが、発表する場面が少なく、今後の課題である。

今後の取組

今後は生徒に考えさせる場面、発言する場面を取り入れられるような授業展開を考えていきたい。習熟度別少人数授業では、文法を中心実施してきたが、今後は古典の理解力、文章表現をする力を向上できる単元での実施を図る。

国語の授業は好きと答えた生徒が全国平均を20ポイント近く上回っているのでその気持ちを尊重し、学習内容、教材、実施形態の工夫、生徒に学力、実態に則したきめ細かい指導を行えるように工夫していく。

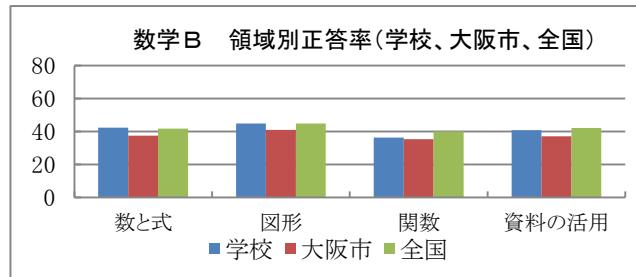
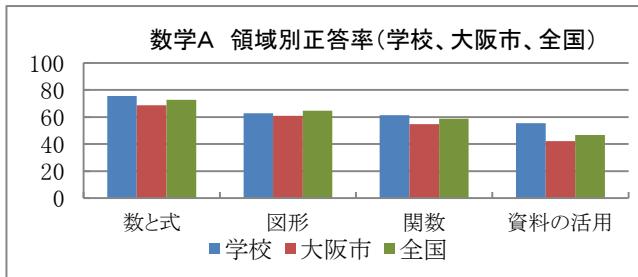
【数学】

結果の概要

- ・A問題の平均正答率は65.6%で、全国と比較すると1.9ポイント、大阪市と比較すると5.8ポイント高い。「数と式」「関数」では、全国より約3ポイント高く、「資料の活用」では8.6ポイント高かった。
- ・B問題の平均正答率は40.1%で、全国と比較すると1.4ポイント低いが、大阪市と比較すると3.0ポイント高い。「数と式」では、全国より1.6ポイント高いが、「関数」「資料の活用」では、全国よりやや下回った。

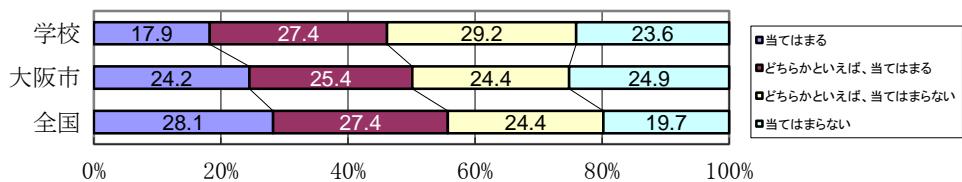
| A 問 題 | | 平均正答率(%) | | |
|------------|-------|----------|------|------|
| | 学校 | 大阪市 | 全国 | |
| 学習指導要領の領域等 | 数と式 | 11 | 75.6 | 68.6 |
| | 図形 | 12 | 62.9 | 60.8 |
| | 関数 | 9 | 61.3 | 54.7 |
| | 資料の活用 | 4 | 55.4 | 42.3 |

| B 問 題 | | 平均正答率(%) | | |
|------------|-------|----------|------|------|
| | 学校 | 大阪市 | 全国 | |
| 学習指導要領の領域等 | 数と式 | 5 | 42.3 | 37.6 |
| | 図形 | 2 | 44.8 | 41.0 |
| | 関数 | 6 | 36.3 | 35.4 |
| | 資料の活用 | 3 | 40.9 | 37.1 |

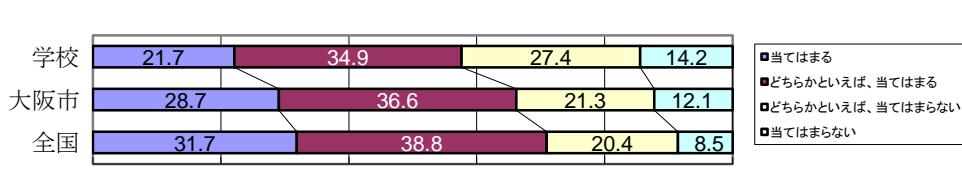


数学に関する「生徒質問紙」

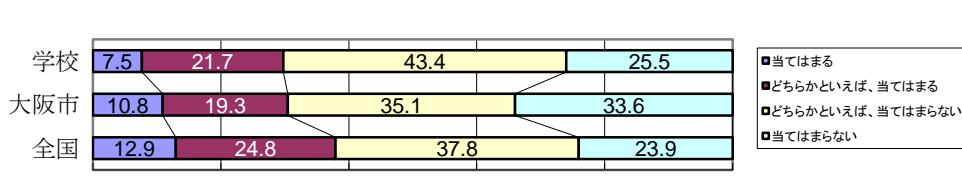
| | | |
|-------------|-------|--------|
| I 73 | II 62 | III 73 |
| 数学の勉強は好きですか | | |



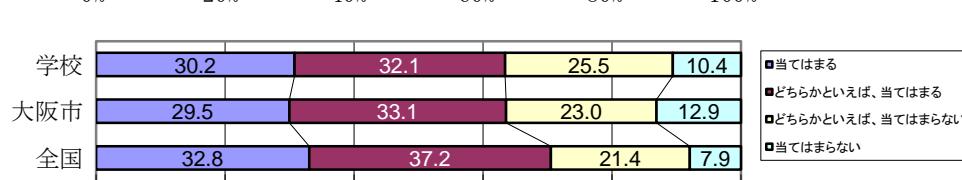
| | | |
|-------------------|-------|--------|
| I 75 | II 64 | III 75 |
| 数学の授業の内容はよく分かりますか | | |



| | | |
|----------------------------------|-------|--------|
| I 78 | II 67 | III 78 |
| 数学の授業で学習したこと普段の生活の中で活用できないか考えますか | | |



| | | |
|--------------------------------------|-------|--------|
| I 81 | II 70 | III 81 |
| 数学の授業で公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしていますか | | |



成果と課題

選択式問題に対して無回答の生徒がほとんどないのは、数学の学習に対する意欲の現れであると判断できる。正答率が悪い問題を見ると、グラフからの読み取り、相対度数などの言葉の知識が十分定着していないことがわかる。

今後の取組

習熟度別少人数授業を活用し、計算分野におけるつまずきの早期解決、関数や図形の分野での個々の理解度に応じた授業展開を工夫する。また、授業時の質問やテストの設問で、単に計算力や記憶力を問うだけでなく、「なぜ」や「プロセス」を問うように工夫を凝らせる。さらに、ICTを活用した授業改善の工夫を図る。

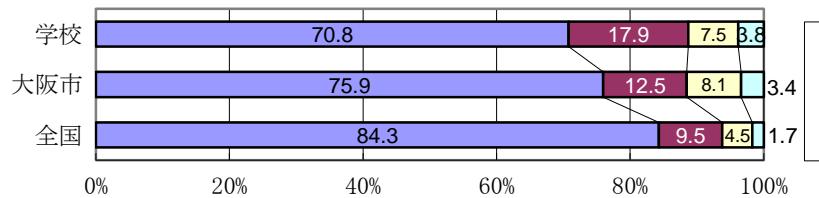
基本的生活習慣・自尊感情・規範意識

結果の概要

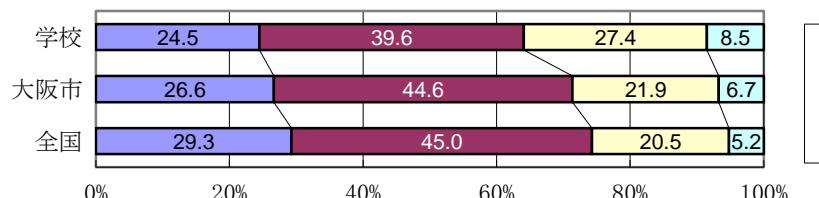
- 朝食を毎日食べている生徒の割合は、全国と比較すると13.5ポイント低く、大阪市と比較しても5.1ポイント低い。
- 毎日同じくらいの時刻に寝ている生徒の割合も、全国と比較すると4.8ポイント低く、大阪市と比較しても2.1ポイント低い。
- 自分には、よいところがあると思うと答えた生徒の割合は、全国と比較すると12.4ポイント高い。
- 学校の規則を守っている、どちらかといえば守っている生徒を合わせると9割を超え、全国と比較してもあまり差はない。

| 質問番号 | 質問事項 |
|------|------|
|------|------|

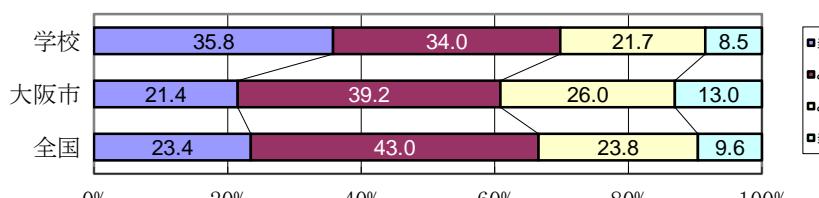
| I | 1 | II | 1 | III | 1 |
|--------------|---|----|---|-----|---|
| 朝食を毎日食べていますか | | | | | |



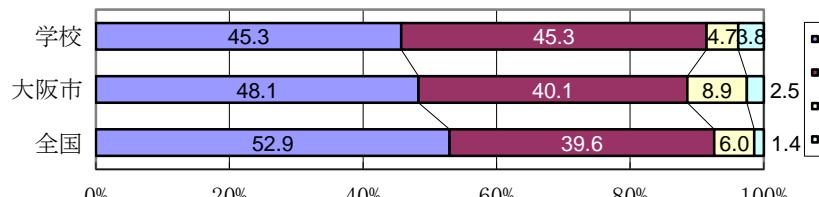
| I | 2 | II | 2 | III | 2 |
|--------------------|---|----|---|-----|---|
| 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか | | | | | |



| I | 6 | II | 6 | III | 6 |
|---------------------|---|----|---|-----|---|
| 自分には、よいところがあると思いますか | | | | | |



| I | 44 | II | 41 | III | 45 |
|---------------|----|----|----|-----|----|
| 学校の規則を守っていますか | | | | | |



成果と課題

本校の前年度と比較しても、朝食を毎日食べている生徒の割合が10.8ポイント低下し、同じ時刻に寝ている生徒の割合も4.2ポイント低下した。一方で、自分には良いところがある生徒の割合は12.8ポイント、学校の規則を守っている生徒の割合も8.5ポイント増加した。昨年度より、学校教育目標の達成に向け、「横堤中だより」や全校集会をとおして、道徳心・社会性の向上を図る取組を進めてきたが、その成果が徐々に出てきていると思われる。生活改善については、家庭への働きかけが重要であり、今後も継続的な啓発活動を進めていかなければならない。

今後の取組

今年度4月より、横堤中学校の生徒であることを自覚し、規律正しく、立派に行動しえるように「横堤中学校生徒10力条」を掲げ、生徒に高い意識を持たせて取組を進め、学期ごとの振り返り調査も実施している。また、大学教授や企業等の人材を招いた出前授業や体験的な学習に重点を置いて取り組んでおり、今後も継続して取り組むとともにその内容もさらに充実させていきたい。すでに成果が現れてきているが、個々の生徒の基本的な生活習慣の改善が図られるような工夫も図っていきたい。

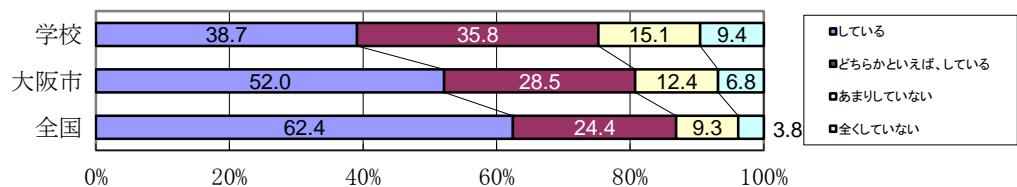
家庭学習・読書・学びの質の改善：言語力の育成

結果の概要

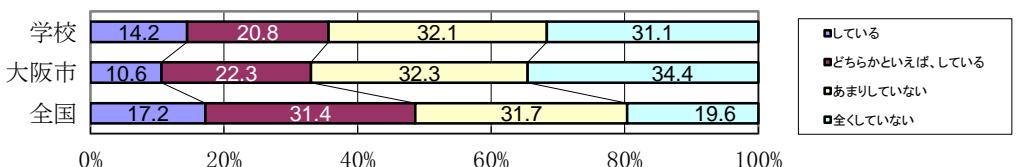
- ・家で宿題をしている生徒の割合は、全国と比較すると23.7ポイント低く、大阪市と比較しても13.3ポイント低い。
- ・家で学校の授業の復習をしている、どちらかといえばしている生徒の割合は、全国と比較すると13.6ポイント低いが、大阪市と比較すると2.1ポイント高い。
- ・読書が好き、どちらかといえば好きな生徒を合わせた割合は、全国と比較すると14.5ポイント低く、大阪市と比較しても1.8ポイント低い。
- ・授業などで自分の考えを説明したり文章に書いたりすることが難しいと思う生徒の割合は、全国と比較すると8.9ポイント高いが、難しくないと思っている生徒の割合も3.6ポイント高い。
- ・授業で生徒間で話し合う活動がよくある、どちらかといえばよくあると思う生徒を合わせた割合は、全国と比較すると26.9ポイント低いが、大阪市と比較すると3.5ポイント高い。・自分には、よいところがあると思うと答えた生徒の割合は、全国と比較すると12.4ポイント高い。

| 質問番号 | 質問事項 |
|------|------|
|------|------|

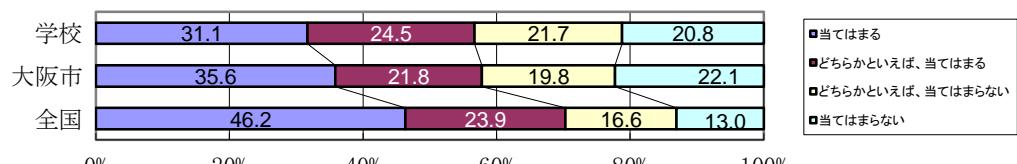
| | | |
|-----------------|-------|--------|
| I 30 | II 25 | III 35 |
| 家で、学校の宿題をしていますか | | |



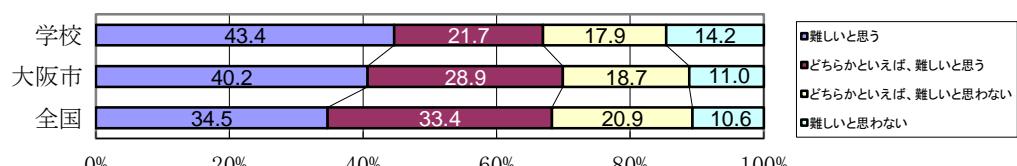
| | | |
|--------------------|-------|--------|
| I 32 | II 27 | III 37 |
| 家で、学校の授業の復習をしていますか | | |



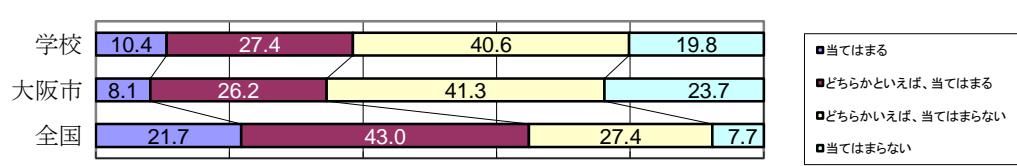
| | | |
|----------|-------|--------|
| I 56 | II 55 | III 66 |
| 読書は好きですか | | |



| | | |
|--|-------|--------|
| I 52 | II 51 | III 61 |
| 学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章を書いたりすることは難しいと思いますか | | |



| | | |
|-----------------------------------|-------|--------|
| I 50 | II 48 | III 57 |
| 普段の授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていると思いますか | | |



成果と課題

宿題・復習の実施状況は、全国と比較して低くなっているが、学習塾に通う生徒が多いことがその理由のひとつと考えられる。学習習慣については、かなり定着しているが、自主的学習や読書活動ができる場を拡大する必要がある。昨年度の課題を受け、各教科においては、自分の考えを発表する・書くという場面を積極的に設定するとともに、グループ学習を活用し、生徒同士の意見交換の場を多く取り入れはじめしており、今後も継続して取り組む必要がある。

今後の取組

保護者・地域と連携した取組は、本校の伝統的な取組として定着しており、地域行事に関わる生徒が多い。今後、学校元気アップ活動を中心とし、学習面での地域参加を促し、学校・地域が一体となった取組を進める。また、若手教員を中心とした研究授業の機会を増やし、教員個々の授業力向上を図る。